第２部　試験の内容

7. 新試験の構成と大問のねらい

各試験科目で出題する問題を、測ろうとしている能力ごとにまとめたものを「大問」とよびます。新試験の大問は、表６「試験科目別大問の構成」に示す通りです。新試験がどのような日本語能力を測るかについては、25ページからの「8. 新試験が測るもの」を、各大問の具体的な説明については29～39ページを参照してください。

表６では、現行試験の問題形式と比較して、次のような印をつけます。

◆	現行試験では出題されていなかった新しい問題形式のもの
◇	現行試験の問題形式を引き継いでいるが、形式に部分的な変更があるもの
○	現行試験でも出題されていたもの
—	そのレベルで出題されないもの

■ 表６　試験科目別大問の構成

試験科目		大　問	N１	N２	N３	N４	N５
言語知識・読解	文字・語彙	漢字読み	◇	◇	◇	◇	◇
		表記	—	◇	◇	◇	◇
		語形成	—	◇	—	—	—
		文脈規定	○	○	○	○	◇
		言い換え類義	○	○	○	○	○
		用法	○	○	○	○	—
	文　法	文の文法１（文法形式の判断）	○	○	○	○	○
		文の文法２（文の組み立て）	◆	◆	◆	◆	◆
		文章の文法	◆	◆	◆	◆	◆
	読　解	内容理解（短文）	○	○	○	○	○
		内容理解（中文）	○	○	○	○	○
		内容理解（長文）	○	—	○	—	—
		統合理解	◆	◆	—	—	—
		主張理解（長文）	◇	◇	—	—	—
		情報検索	◆	◆	◆	◆	◆
聴　解		課題理解	◇	◇	◇	◇	◇
		ポイント理解	◇	◇	◇	◇	◇
		概要理解	◇	◇	◇	—	—
		発話表現	—	—	◆	◆	◆
		即時応答	◆	◆	◆	◆	◆
		統合理解	◇	◇	—	—	—

現行試験では出題されていなかった新しい形式の問題（◆で表示）については、41～58ページの「9. 問題解答上の留意点」に説明があります。

各レベルの「大問のねらい」は20～24ページの表に示す通りです。各大問には、複数の小問が含まれます[*7]。表中の「小問数」は、毎回の試験で出題する小問数の目安で、実際の試験での出題数は多少異なる場合があります。

＊7：読解では、一つのテキスト（本文）に対して、複数の「小問」がある場合もあります。

N1 大問のねらい

試験科目（試験時間）		問題の構成				
		大問			小問数*	ねらい
言語知識・読解（110分）	文字・語彙	1	漢字読み	◇	6	漢字で書かれた語の読み方を問う
		2	文脈規定	○	7	文脈によって意味的に規定される語が何であるかを問う
		3	言い換え類義	○	6	出題される語や表現と意味的に近い語や表現を問う
		4	用法	○	6	出題語が文の中でどのように使われるのかを問う
	文法	5	文の文法1（文法形式の判断）	○	10	文の内容に合った文法形式かどうかを判断することができるかを問う
		6	文の文法2（文の組み立て）	◆	5	統語的に正しく、かつ、意味が通る文を組み立てることができるかを問う
		7	文章の文法	◆	5	文章の流れに合った文かどうかを判断することができるかを問う
	読解*	8	内容理解（短文）	○	4	生活・仕事などいろいろな話題も含め、説明文や指示文など200字程度のテキストを読んで、内容が理解できるかを問う
		9	内容理解（中文）	○	9	評論、解説、エッセイなど500字程度のテキストを読んで、因果関係や理由などが理解できるかを問う
		10	内容理解（長文）	○	4	解説、エッセイ、小説など1000字程度のテキストを読んで、概要や筆者の考えなどが理解できるかを問う
		11	統合理解	◆	3	複数のテキスト（合計600字程度）を読み比べて、比較・統合しながら理解できるかを問う
		12	主張理解（長文）	◇	4	社説、評論など抽象性・論理性のある1000字程度のテキストを読んで、全体として伝えようとしている主張や意見がつかめるかを問う
		13	情報検索	◆	2	広告、パンフレット、情報誌、ビジネス文書などの情報素材（700字程度）の中から必要な情報を探し出すことができるかを問う
聴解（60分）		1	課題理解	◇	6	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（具体的な課題解決に必要な情報を聞き取り、次に何をするのが適当か理解できるかを問う）
		2	ポイント理解	◇	7	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（事前に示されている聞くべきことをふまえ、ポイントを絞って聞くことができるかを問う）
		3	概要理解	◇	6	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（テキスト全体から話者の意図や主張などが理解できるかを問う）
		4	即時応答	◆	14	質問などの短い発話を聞いて、適切な応答が選択できるかを問う
		5	統合理解	◇	4	長めのテキストを聞いて、複数の情報を比較・統合しながら、内容が理解できるかを問う

＊「小問数」は毎回の試験で出題される小問数の目安で、実際の試験での出題数は多少異なる場合があります。また、小問数は変更される場合があります。

＊「読解」では、一つのテキスト（本文）に対して、複数の問題がある場合もあります。

N2 大問のねらい

試験科目（試験時間）		問題の構成				
		大問			小問数*	ねらい
言語知識・読解（105分）	文字・語彙	1	漢字読み	◇	5	漢字で書かれた語の読み方を問う
		2	表記	◇	5	ひらがなで書かれた語が、漢字でどのように書かれるかを問う
		3	語形成	◇	5	派生語や複合語の知識を問う
		4	文脈規定	○	7	文脈によって意味的に規定される語が何であるかを問う
		5	言い換え類義	○	5	出題される語や表現と意味的に近い語や表現を問う
		6	用法	○	5	出題語が文の中でどのように使われるのかを問う
	文法	7	文の文法1（文法形式の判断）	○	12	文の内容に合った文法形式かどうかを判断することができるかを問う
		8	文の文法2（文の組み立て）	◆	5	統語的に正しく、かつ、意味が通る文を組み立てることができるかを問う
		9	文章の文法	◆	5	文章の流れに合った文かどうかを判断することができるかを問う
	読解*	10	内容理解（短文）	○	5	生活・仕事などいろいろな話題も含め、説明文や指示文など200字程度のテキストを読んで、内容が理解できるかを問う
		11	内容理解（中文）	○	9	比較的平易な内容の評論、解説、エッセイなど500字程度のテキストを読んで、因果関係や理由、概要や筆者の考え方などが理解できるかを問う
		12	統合理解	◆	2	比較的平易な内容の複数のテキスト（合計600字程度）を読み比べて、比較・統合しながら理解できるかを問う
		13	主張理解（長文）	◇	3	論理展開が比較的明快な評論など、900字程度のテキストを読んで、全体として伝えようとしている主張や意見がつかめるかを問う
		14	情報検索	◆	2	広告、パンフレット、情報誌、ビジネス文書などの情報素材（700字程度）の中から必要な情報を探し出すことができるかを問う
聴解（50分）		1	課題理解	◇	5	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（具体的な課題解決に必要な情報を聞き取り、次に何をするのが適当か理解できるかを問う）
		2	ポイント理解	◇	6	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（事前に示されている聞くべきことをふまえ、ポイントを絞って聞くことができるかを問う）
		3	概要理解	◇	5	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（テキスト全体から話者の意図や主張などが理解できるかを問う）
		4	即時応答	◆	12	質問などの短い発話を聞いて、適切な応答が選択できるかを問う
		5	統合理解	◇	4	長めのテキストを聞いて、複数の情報を比較・統合しながら、内容が理解できるかを問う

＊「小問数」は毎回の試験で出題される小問数の目安で、実際の試験での出題数は多少異なる場合があります。また、小問数は変更される場合があります。

＊「読解」では、一つのテキスト（本文）に対して、複数の問題がある場合もあります。

N3 大問のねらい

試験科目（試験時間）		問題の構成				
		大問			小問数*	ねらい
言語知識（30分）	文字・語彙	1	漢字読み	◇	8	漢字で書かれた語の読み方を問う
		2	表記	◇	6	ひらがなで書かれた語が、漢字でどのように書かれるかを問う
		3	文脈規定	○	11	文脈によって意味的に規定される語が何であるかを問う
		4	言い換え類義	○	5	出題される語や表現と意味的に近い語や表現を問う
		5	用法	○	5	出題語が文の中でどのように使われるのかを問う
言語知識・読解（70分）	文法	1	文の文法1（文法形式の判断）	○	13	文の内容に合った文法形式かどうかを判断することができるかを問う
		2	文の文法2（文の組み立て）	◆	5	統語的に正しく、かつ、意味が通る文を組み立てることができるかを問う
		3	文章の文法	◆	5	文章の流れに合った文かどうかを判断することができるかを問う
	読解*	4	内容理解（短文）	○	4	生活・仕事などいろいろな話題も含め、説明文や指示文など150～200字程度の書き下ろしのテキストを読んで、内容が理解できるかを問う
		5	内容理解（中文）	○	6	書き下ろした解説、エッセイなど350字程度のテキストを読んで、キーワードや因果関係などが理解できるかを問う
		6	内容理解（長文）	○	4	解説、エッセイ、手紙など550字程度のテキストを読んで、概要や論理の展開などが理解できるかを問う
		7	情報検索	◆	2	広告、パンフレットなどの書き下ろした情報素材（600字程度）の中から必要な情報を探し出すことができるかを問う
聴解（40分）		1	課題理解	◇	6	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（具体的な課題解決に必要な情報を聞き取り、次に何をするのが適当か理解できるかを問う）
		2	ポイント理解	◇	6	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（事前に示されている聞くべきことをふまえ、ポイントを絞って聞くことができるかを問う）
		3	概要理解	◇	3	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（テキスト全体から話者の意図や主張などが理解できるかを問う）
		4	発話表現	◆	4	イラストを見ながら、状況説明を聞いて、適切な発話が選択できるかを問う
		5	即時応答	◆	9	質問などの短い発話を聞いて、適切な応答が選択できるかを問う

＊「小問数」は毎回の試験で出題される小問数の目安で、実際の試験での出題数は多少異なる場合があります。また、小問数は変更される場合があります。

＊「読解」では、一つのテキスト（本文）に対して、複数の問題がある場合もあります。

N4 大問のねらい

試験科目（試験時間）		問題の構成				
		大問			小問数*	ねらい
言語知識（30分）	文字・語彙	1	漢字読み	◇	9	漢字で書かれた語の読み方を問う
		2	表記	◇	6	ひらがなで書かれた語が、漢字でどのように書かれるかを問う
		3	文脈規定	○	10	文脈によって意味的に規定される語が何であるかを問う
		4	言い換え類義	○	5	出題される語や表現と意味的に近い語や表現を問う
		5	用法	○	5	出題語が文の中でどのように使われるのかを問う
言語知識・読解（60分）	文法	1	文の文法1（文法形式の判断）	○	15	文の内容に合った文法形式かどうかを判断することができるかを問う
		2	文の文法2（文の組み立て）	◆	5	統語的に正しく、かつ、意味が通る文を組み立てることができるかを問う
		3	文章の文法	◆	5	文章の流れに合った文かどうかを判断することができるかを問う
	読解*	4	内容理解（短文）	○	4	学習・生活・仕事に関連した話題・場面の、やさしく書き下ろした100～200字程度のテキストを読んで、内容が理解できるかを問う
		5	内容理解（中文）	○	4	日常的な話題・場面を題材にやさしく書き下ろした450字程度のテキストを読んで、内容が理解できるかを問う
		6	情報検索	◆	2	案内やお知らせなど書き下ろした400字程度の情報素材の中から必要な情報を探し出すことができるかを問う
聴解（35分）		1	課題理解	◇	8	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（具体的な課題解決に必要な情報を聞き取り、次に何をするのが適当か理解できるかを問う）
		2	ポイント理解	◇	7	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（事前に示されている聞くべきことをふまえ、ポイントを絞って聞くことができるかを問う）
		3	発話表現	◆	5	イラストを見ながら、状況説明を聞いて、適切な発話が選択できるかを問う
		4	即時応答	◆	8	質問などの短い発話を聞いて、適切な応答が選択できるかを問う

＊「小問数」は毎回の試験で出題される小問数の目安で、実際の試験での出題数は多少異なる場合があります。また、小問数は変更される場合があります。

＊「読解」では、一つのテキスト（本文）に対して、複数の問題がある場合もあります。

N5 大問のねらい

試験科目（試験時間）		問題の構成				
		大問			小問数*	ねらい
言語知識（25分）	文字・語彙	1	漢字読み	◇	12	漢字で書かれた語の読み方を問う
		2	表記	◇	8	ひらがなで書かれた語が、漢字・カタカナでどのように書かれるかを問う
		3	文脈規定	◇	10	文脈によって意味的に規定される語が何であるかを問う
		4	言い換え類義	○	5	出題される語や表現と意味的に近い語や表現を問う
言語知識・読解（50分）	文法	1	文の文法1（文法形式の判断）	○	16	文の内容に合った文法形式かどうかを判断することができるかを問う
		2	文の文法2（文の組み立て）	◆	5	統語的に正しく、かつ、意味が通る文を組み立てることができるかを問う
		3	文章の文法	◆	5	文章の流れに合った文かどうかを判断することができるかを問う
	読解*	4	内容理解（短文）	○	3	学習・生活・仕事に関連した話題・場面の、やさしく書き下ろした80字程度のテキストを読んで、内容が理解できるかを問う
		5	内容理解（中文）	○	2	日常的な話題・場面を題材にやさしく書き下ろした250字程度のテキストを読んで、内容が理解できるかを問う
		6	情報検索	◆	1	案内やお知らせなど書き下ろした250字程度の情報素材の中から必要な情報を探し出すことができるかを問う
聴解（30分）		1	課題理解	◇	7	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（具体的な課題解決に必要な情報を聞き取り、次に何をするのが適当か理解できるかを問う）
		2	ポイント理解	◇	6	まとまりのあるテキストを聞いて、内容が理解できるかどうかを問う（事前に示されている聞くべきことをふまえ、ポイントを絞って聞くことができるかを問う）
		3	発話表現	◆	5	イラストを見ながら、状況説明を聞いて、適切な発話が選択できるかを問う
		4	即時応答	◆	6	質問などの短い発話を聞いて、適切な応答が選択できるかを問う

＊「小問数」は毎回の試験で出題される小問数の目安で、実際の試験での出題数は多少異なる場合があります。また、小問数は変更される場合があります。

＊「読解」では、一つのテキスト（本文）に対して、複数の問題がある場合もあります。

8. 新試験が測るもの

8－1 課題遂行のための言語コミュニケーション能力

日本語能力試験の改定は2005年に開始しました。以来、改定の基本方針である「課題遂行のための言語コミュニケーション能力を測定する」にしたがって試験を設計し、試験としての妥当性、信頼性の検証を繰り返しながら、新試験の構築を行ってきました。本節では「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」について、課題とは何か、その遂行のために必要な言語コミュニケーション能力とは何か、について詳しく説明します。

(1) 課題

課題とは、何らかの目標や目的を達成するために、積極的に取り組むものを言います。課題には、手紙やEメールなどへの返事、ビジネスでの交渉、研究発表、物語を書いたりすることなど、言語を使って取り組む課題もあれば、絵を描いたり、修理や組み立てなど、言語を使わないで遂行する課題もあります。新試験では、学習者が現在日本語を使用している、または将来日本語を使用すると予想される状況を「目標言語使用領域（以下、本節内では「領域」）」として、設定しました。そして、この「領域」で遂行する頻度が高いと予想される「目標言語使用課題（以下、本節内では「課題」）」を選んで、出題します。

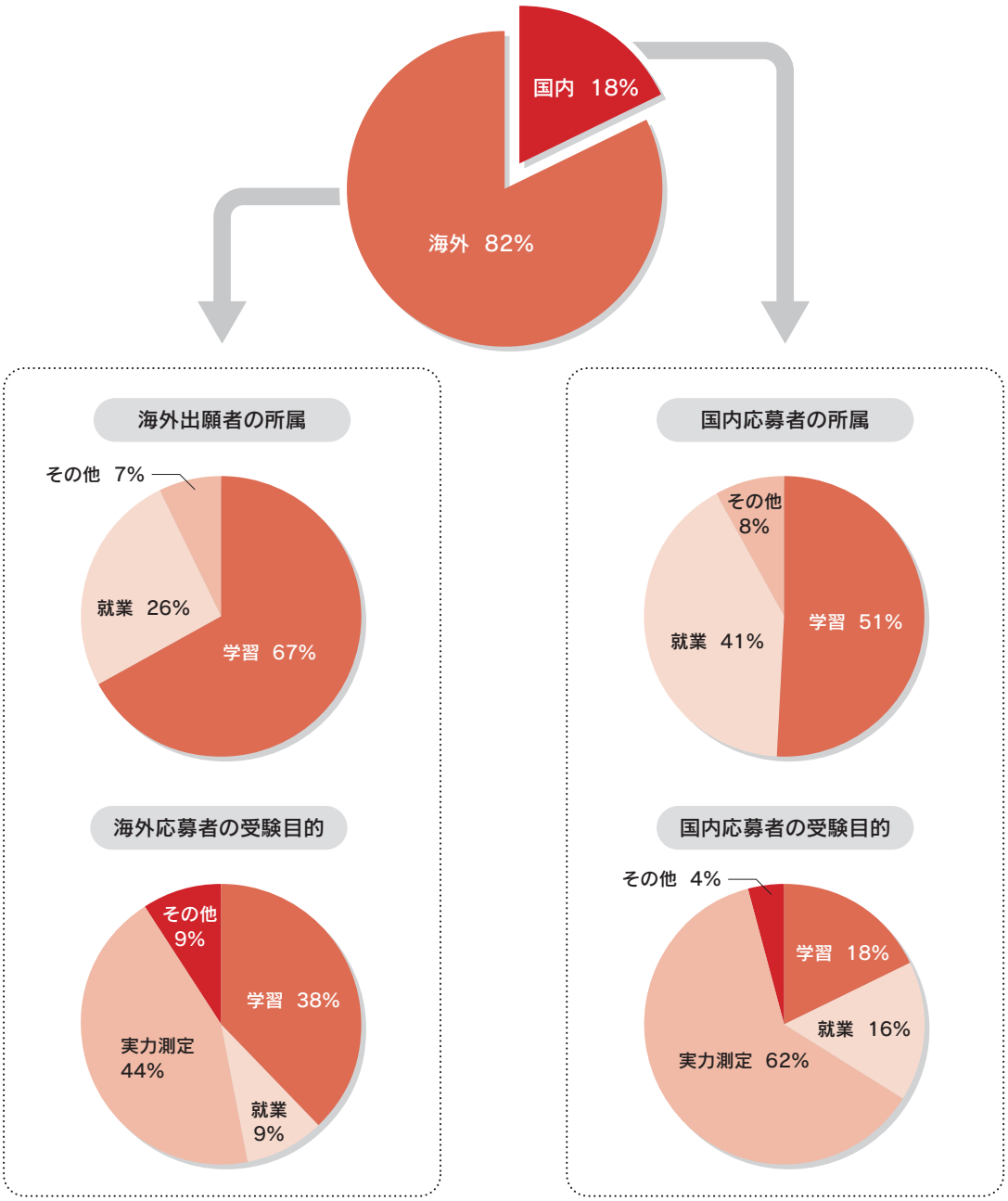
実際の試験問題においては、「課題」をそのまま出題する場合もありますし、「課題」の特徴を部分的に反映したり、加工したりして出題する場合もあります。また「課題」そのものでなく課題遂行に必要な言語知識を出題する場合もありますが、全体として「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」を測定する試験を目指します。

(2)「領域」

日本語学習者の「課題」を把握するためには、本来なら学習者一人一人の言語行動を調査する必要がありますが、実際にはそれは不可能です。そこで、現行試験の応募者の現在の所属や、受験目的などに関するアンケート調査の結果から、「学習」「就業」「生活」の三つの「領域」の分類を手がかりとして用いながら、日本語学習者の現在や将来の「課題」を推測することにしました。

次のグラフ1は、2008年に受験願書を通じて応募者の日本語を使用する「領域」について調査を行った結果です。

■ グラフ1　2008年日本語能力試験応募者数の割合



まず、応募者の所属をもとに、教育機関で学んでいる「学習者」と、働いている「就業者」に分けました。応募者がその所属先において必ずしも日本語を使用しているとは限らないため、直接「学習」「就業」という「領域」を示すものとは言えませんが、応募者の現在の所属から見ると、海外では「学習」が67%、「就業」が26%、国内では「学習」が51%、「就業」が41%となります。また、全応募者中18%を占める国内応募者は、日本での「生活」の場でも日本語を使用していることになります。

次に、「受験目的」から、将来どのような「領域」で日本語を使用していく可能性があるかを見ると、海外では「学習」が38%、「就業」が9%、国内では「学習」が18%、「就業」が16%になります。

実際の試験問題を作成する際には「領域」や「課題」をさらにくわしく検討しますが、上記の調査で明

らかになった日本語学習者の「領域」を前提にして、各「領域」の特徴を持つさまざまな「課題」を想定することにします。

なお、この調査で注目されるのが、「実力測定」を受験目的とする応募者が国内外を通じて最も多く、国内では62%、海外では44%を占めることです。このことから、やさしいレベルから難しいレベルまで、複数のレベルを持つ日本語能力試験には、「今どの学習段階にあるのか」「次にどんな目標をめざせばよいのか」といった学習段階や学習目標を示す役割が求められていると考えられます。

(3) 言語コミュニケーション能力と新試験の構成

新試験では「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」を、「日本語学習者が、それぞれの目標言語使用領域で日本語を使用して課題を遂行するための日本語能力」と定義します。さらにこの能力は言語知識と、それを利用して「課題」を遂行する能力の二つからなります。したがって、言語知識も「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」の重要な構成要素と位置づけています。そして、この「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」を測るために、**N1**～**N5**の5段階のレベルを通じて、言語知識（文字・語彙・文法）、読解、聴解の三つに分けて測ることにしました。

■ 表7　言語知識

構造的知識
- **文法的知識**
  - 語彙の知識
  - 統語の知識
  - 音韻／書記体系の知識
- **テキストについての知識**
  - 結束性の知識

語用論的知識
- **機能的知識**
- **社会言語学的知識**

Bachman & Palmer（1996）を参考に作成

言語知識（文字・語彙・文法）においては、表7に示したBachman & Palmer（1996）における言語知識の枠組みなどの先行研究を参考にしながら、語彙の知識、統語の知識（語と語を結びつけて文を作るための知識）、音韻／書記体系の知識（日本語の発音のしかたや書き表し方についての知識）、結束性の知識（文と文とを結びつけてまとまりを持った文章にするための知識）を測ります。なお結束性の知識は31ページ「8－3　言語知識（文法）」で扱うテクスト性の知識に関連するものです。

一方、言語知識を利用して課題を遂行する能力は、読解や聴解でより一層現実に近い形で発揮されます。「課題遂行のための言語コミュニケーション能力を測定する」試験として、その点を重視して試験の設計に反映すべきと考えました。そこで、**N1**、**N2**、**N3**レベルでは基礎段階の**N4**、**N5**に比べて、問題

構成において、読解の比率を高くしています。聴解に関しても、現行試験で総合点の４分の１だった得点の配分を、新試験では総合点の３分の１の重みにしています。

また、「課題」遂行の観点から新形式の問題を開発しました。そして現行試験からそのまま継承した問題形式、部分的に変更を加えた問題形式と合わせ、試験問題全体を「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」を測るものとして再構成しました。

さらに、言語知識として出題される語彙および文法項目リストについては、現行試験のリスト作成から20余年を経過しているため、改めて現在の日本語学習者の「領域」を考慮して調査した言語データに基づき、内容を改定しました。

以下、言語知識（文字・語彙）、言語知識（文法）、読解、聴解の順に、新試験で測定する知識、能力について説明します。

8－2 言語知識（文字・語彙）

(1) 文字・語彙の知識とは

新試験の「言語知識（文字・語彙）」は、27ページの表7「言語知識」の中の、「語彙の知識」と「音韻／書記体系の知識」に相当する知識を測定の対象にします。

文字・語彙の知識は二つの観点から捉えることができます。一つは「どのぐらいの数の語を知っているか」、もう一つは「ある語についてどのぐらい詳しく知っているか」です。「ある語についてどのぐらい詳しく知っているか」は、語の形式・意味・用法の３要素から成り立っています。現行試験の「文字・語彙」では、「認定基準」に示されている数の語を知っていることを前提に、これらの３要素を測定するように問題が構成されています。新試験でも、現行試験の問題形式をふまえ、これらの３要素を測定することとしました。

(2) 大問のねらい

「言語知識（文字・語彙）」の大問の構成は、表８の通りです。

■ 表８　言語知識（文字・語彙）　大問の構成

試験科目	大問	N１	N２	N３	N４	N５
言語知識（文字・語彙）	漢字読み	◇	◇	◇	◇	◇
	表記	—	◇	◇	◇	◇
	語形成	—	◇	—	—	—
	文脈規定	○	○	○	○	◇
	言い換え類義	○	○	○	○	○
	用法	○	○	○	○	—

新試験の「言語知識（文字・語彙）」では、「漢字読み」「表記」「語形成」「文脈規定」「言い換え類義」「用法」の六つの大問を設定し、「課題遂行のための言語コミュニケーション能力」の土台となる言語知識を、語の形式・意味・用法の三つの側面から測ります。

① 語の形式に関する知識を測る問題

語の形式に関する知識を測る問題として、「漢字読み」「表記」「語形成」の三つの大問を設けました。「漢字読み」では漢字で書かれた語の読み方を、「表記」ではひらがなで書かれた語の漢字表記・カタカナ表記を問います。ただし、カタカナ表記を問うのは**N5**のみです。また、**N1**では「表記」の大問は出題しません。「語形成」は、派生語や複合語の知識を問います。「語形成」という大問は**N2**のみに設定されていますが、**N1**と**N3**でも他の大問（「文脈規定」）の中で同様の知識を問うことがあります。

② 語の意味に関する知識を測る問題

語の意味に関する知識を測る問題として、「文脈規定」と「言い換え類義」の二つの大問を設けました。「文脈規定」では、一文中の空所に入る意味的に最も適当な語を問います。空所の前後の文脈からどのような意味を持つ語が空所に入るかを考え、その意味を表す語を選びます。「言い換え類義」では、出題される語や表現と意味的に近い語や表現を問います。語の意味に関する知識を測定する「文脈規定」と「言い換え類義」は、**N1** から **N5** の全てのレベルで出題します。

③ 語の用法に関する知識を測る問題

語の用法に関する知識を測る問題として、「用法」という大問を設けました。「用法」では、語が文の中でどのように使われるのかを問います。具体的には、その語の品詞は何か、その語はどのような語と共に使うことができるかという点から、語の用法に関する知識を測定します。こうした知識は日本語学習がある程度進んだ段階で徐々に形成されると考えられるため、**N5** では出題せず、**N1** から **N4** で出題します。

8－3 言語知識（文法）

(1) 文法の知識とは

新試験の「言語知識（文法）」では、文法の知識を、文法形式とその意味用法に関する知識と、テクスト性*8に関する知識という二つの観点から捉えます。

語だけを知っていても、文は作れません。文を作るためには、助詞を使ったり、動詞や形容詞などの活用語の形を変えたりして、語と語とが自然に結び付くようにしなければなりません。そのためには、助詞や活用語などといった、文法形式とその意味用法に関する知識が必要です。その知識がなければ、日本語の文として意味をなさない単なる語の羅列になってしまい、特に書かれた文の場合はまったく意味が通じないといったことも起こり得ます。

また、文を並べただけでは、まとまりを持った文章とは言えません。まとまりを持った文章を作るためには、接続詞を使ったり、視点を統一したりして、文と文とが自然につながるようにしなければなりません。そのためには、文章にまとまりを与えるテクスト性に関する知識が必要です。その知識がなければ、日本語の文章としてまとまりを持たない単なる文の連続になってしまい、伝えたいことが十分には伝わらないといったことも起こり得ます。

そこで、新試験では、文法の知識を、一文レベルと、一文を超えたレベルとの二つの観点から捉えて、測定することとしました。

(2) 大問のねらい

「言語知識（文法）」の大問の構成は、表９の通りです。

■ 表９　言語知識（文法）　大問の構成

試験科目	大問	N１	N２	N３	N４	N５
言語知識（文法）	文の文法１（文法形式の判断）	○	○	○	○	○
	文の文法２（文の組み立て）	◆	◆	◆	◆	◆
	文章の文法	◆	◆	◆	◆	◆

① 文法形式とその意味用法に関する知識を測る問題

文法形式とその意味用法に関する知識については、語と語とを結び付けて意味の通る文にするためにはどうすればいいのかを問うことで、測ることができると考えました。そこで受験者が、どのぐらい多くの文法形式を、意味用法と合わせて知っているかを測るために、「文の内容に合った文法形式かど

*8：この「テクスト性」という概念は池上（1983）に従っています。

うかを判断することができるかを問う」ことをねらいとした大問を設定し、問題形式として、一文レベルの空所補充形式をとりました。この大問を「文の文法１（文法形式の判断）」と呼びます。

また、語と語とを結び付けて意味の通る文にするためには、文法形式を知っているだけでなく、さらに、それを使って文が作れることが重要です。そこで、「統語的に正しく、かつ、意味が通る文を組み立てることができるかを問う」ことをねらいとした大問を設定し、問題形式として、一文レベルの並べ替え形式をとりました。この大問を「文の文法２（文の組み立て）」と呼びます。

② テクスト性に関する知識を測る問題

テクスト性に関する知識については、文と文とを結び付けてまとまりを持った文章にするためにはどうすればいいのかを問うことで、測ることができると考えました。そこで、「文章の流れに合った文かどうかを判断することができるかを問う」ことをねらいとした大問を設定し、問題形式として、一文を超えたレベルの空所補充形式をとりました。この大問を「文章の文法」と呼びます。

8－4 読解

(1) 読解とは

読解とは、目の前のテキスト（文章）を読む目的や課題に合わせて、言語知識や話題に関する知識と、それらを利用する能力を一緒に使用して、テキストに書かれている情報を処理し、理解していく過程です。

読解の過程には、テキスト中の語から文、文から文章へと、小さな単位からより大きな単位へ段階的に進めていく読み方（ボトムアップ読み）と、言語知識や話題・場面に関する背景知識を活用して、テキスト全体の内容を予想し、次に来る細かい内容を予測しながら読み進めていく読み方（トップダウン読み）の、二つの方向の読み方があります。そして、この二つの読み方が同時に行われ、お互いに補い合ってさらに理解を深める読み方（相互作用読み）も行われます。

ただし、実際の生活で行われている読解はもう少し複雑で、私達はいろいろな読み方をしています。

たとえば、同じ日本語で書かれたテキストでも、難しいテーマを扱った評論を読んで理解するのと、商品のパンフレットを見て機能や値段を見比べるのとでは、読み方が異なります。評論では論の流れを追いながら細かく正確に理解していくことが必要で、パンフレットでは探している情報を全体から素早く見つけ出すことが必要です。この二つの例では、それぞれの目的や課題に合わせて異なった読み方をしています。このように読解では、目的や課題に合わせて言語知識や話題に関する知識を利用するだけではなく、読み方を選ぶ能力も大切です。

読解の目標は、テキストから何らかの情報を得ることと言えます。新試験の「読解」では、「どのようなテキストから」「どのように情報を得るか」の二つの観点から課題を設定します。

まず「どのようなテキストから」については、テキストによって読み方が変わるので、25～27ページに示した「領域」に関する調査結果などを参考に、海外や国内の学習環境を考慮した適切な範囲で、多様なテキストを扱います。テキストの話題・内容は、学習に関するもの、生活の中で目に触れる実用的なもの、仕事に関するものなどを取り入れます。また、テキストの種類は、説明文、意見文、評論、エッセイなどの他に、生活場面で目にする連絡や案内、仕事で使われる文書などです。テキストの形式は、一般的な文章形式の他に、箇条書きや表の場合もあります。そして、テキストの長さも、レベルに応じて短文、中文、長文の区分けを行います[*9]。

次に「どのように情報を得るか」ですが、読み方には次の表10のA～Dの四つのタイプがあります。新試験ではこの枠組みをもとに課題を設定しますが、実際の問題にはA～Dのどれか一つの読み方を主に求めるものと、二つを組み合わせた読み方を求めるものがあります。

＊9：各レベルの短文、中文、長文の長さについては、20～24ページの「大問のねらい」を参照してください。

■ 表10　四つの読み方

	テキストの全体	テキストの部分
迅速に	A．全体を迅速に読む	B．部分を迅速に読む
注意深く	C．全体を注意深く読む	D．部分を注意深く読む

Urquhart & Weir（1998）を参考に作成

（2）大問のねらい

「読解」の大問の構成は、表11の通りです。

■ 表11　読解　大問の構成

試験科目	大問	N1	N2	N3	N4	N5
読　解	内容理解（短文）	○	○	○	○	○
	内容理解（中文）	○	○	○	○	○
	内容理解（長文）	○	—	○	—	—
	統合理解	◆	◆	—	—	—
	主張理解（長文）	◇	◇	—	—	—
	情報検索	◆	◆	◆	◆	◆

新試験で出題される大問を以下の四つに分類して説明します。

① テキストの内容（部分）を的確に理解する問題

新試験でも現行試験と同様に、言語知識を利用してテキストの細かい部分を注意深く読んで的確に理解できるかどうかを重視します。これは、「部分を注意深く読む」読み方（表10のD）を求めるもので、「内容理解」という大問として全レベル（**N1**から**N5**）で出題します。テキストに書かれている事実関係が理解できているか、理由や原因が把握できているか、その文脈ではどのような意味なのかを理解できているかなどを問います。

② テキストの内容（より広い部分・全体）を的確に理解する問題

外国語（第二言語）の読解では、テキストの内容の細かい部分は理解できても、全体として何が書かれているのかがわからないということがしばしば起こります。テキストの全体像を的確に把握し、大

意を取ったり、キーワードを押さえたり、どのような論理で展開しているかをとらえたりすることも、読解の大切な能力です。このような「全体を迅速に／注意深く読む」読み方（表10のAとC）を求める問題も、**N1**、**N2**、**N3**の「内容理解」で出題します。

また、論説文などのテキストでは、それが何を伝えるためのものなのか、そもそも筆者は何を言いたかったのかを理解することが全体の内容理解には欠かせません。そこで、**N1**と**N2**では「主張理解」という大問を立てて、テキストが全体として伝えようとしている主張・意見を読み取ることができるかを問います。

③ 関連がある複数のテキストを比較したり統合したりする問題

一つのテキストを読み進めながら、内容的に関連がある他のテキストと関係づけ、共通点や相違点を比較したり、複数のテキストの内容を統合して理解したりすることも、読解の能力の一つです。このような「全体を迅速に読む／部分を注意深く読む」読み方（表10のAとD）を求める問題を、**N1**と**N2**で「統合理解」という新しい大問を立てて出題します。たとえば同じ話題について違う立場から書かれた二つのテキストについて、その違いや同じところが理解できるかを問います。

④ お知らせ、パンフレットなどから必要な情報を検索する問題

全体の内容を正確に理解することよりも、テキストの中から目的や課題に合わせて必要な情報を探し出すことに重点を置いた「情報検索」という大問を新しく立てます。これは「全体を／部分を迅速に読む」読み方（表10のAとB）を求める問題で、全てのレベルで出題します。この能力は、どのレベルでも必要な読解能力と考えるからです。たとえばアルバイトの募集広告を見て、全体をざっと見て条件などの必要な情報を探し出したり、自分の都合などに関係がある部分を突き止めて、自分の条件と比べたりできるかを問います。

8－5 聴解

(1) 聴解とは

聴解とは、聞き手が話し手の発話を聞き、課題や目的に応じて、言語知識や話題に関する知識とそれらを利用する能力を合わせて使用しながら、情報を処理し、理解していく過程です。

聴解は、読解と同様、言語を理解する過程なので、両者には類似点が多いと言われています。一方、聴解は文字ではなく音声によって言葉が伝えられるため、聴解の過程には読解と異なるいくつかの特徴があります。

まず、聞き手は、聞こえてくる一連の音声テキストから自分で音声や意味のまとまりを認識する必要があります。例えば、「このお菓子、どうぞ。」という発話は、日本語を学習したことのない人の耳には“konookashidoozo”という意味のない音声の流れとしか聞こえないはずですが、日本語話者はここから／コノ／という一つの音声のまとまりや、「この」という意味を認識していると考えられます。

また、音声テキストには、文字で書かれたテキストとは異なる下のような特徴があり、聞き手はこれらの特徴を理解して聞く必要があります。

- 音の変化が起こる
  (例：「～ている」➡「～てる」、「～てしまう」➡「～ちゃう」等の縮約、「あまり」➡「あんまり」等の音の添加)
- 音の強調やイントネーションが重要な意味を持つ
- くり返しや言いよどみが生じる
- 単語や句の形で話されたり、倒置が起こったりする
- 話者間で共有されている情報は省略され、言語化されないことがある

さらに、聴解ではその場でその瞬間に聞いた言葉をすぐに理解しなければならないということも、読解との違いです。聞き手は、録音をしない限り、読み手がテキストを読み返したりゆっくり読んだりするように、自由に音声を聞き直したり速度を落として聞いたりすることはできません。したがって、聞き手には音声で提示された情報を即時に処理して理解することが求められます。

以上をふまえた上で、新試験の「聴解」では現実のコミュニケーションに必要な聴解能力を問うことに重きをおき、試験問題をより現実の課題に近づけたものにします。聞き手は、一方的に情報を受け取るだけの受身的な存在ではありません。発話の中から自分が知りたいと思う情報を選びとったり、聞いた情報をもとに行動したりします。具体的な行動をとらない場合でも、聞き手は目的やテキストのタイプに応じて様々な聞き方をしていると考えられます。新試験では、このような、実際のコミュニケーション場面における聞き方のいくつかに焦点を当てて、聴解能力を測定します。

聴解の問題を現実のコミュニケーションに近づけるためには、聞き手がどのような役割で談話に参加し、どのようにテキストを聞いているかも考慮する必要があります。聞き手の役割は、状況によって

様々に異なります。例えば、ラジオやアナウンスを聞く状況では、聞き手は話し手の発話の内容を理解するだけですが、対面で会話している状況では、聞き手にもあいづち、応答、話す順番の交替などが求められます。新試験では、現実場面で求められる聞き手の役割をできる限り問題に反映させたいと考えています。そのため、発話の内容を理解するだけでなく、応答が求められる聞き手の役割を設定した問題を作成しています。もちろん、聴解の試験で、受験者の発話を測定することはできませんので、相手の発話に対する応答の適切さの理解を問うという形で出題します。

(2) 大問のねらい

「聴解」の大問の構成は、表12の通りです。

■ 表12　聴解　大問の構成

試験科目	大問	N1	N2	N3	N4	N5
聴　解	課題理解	◇	◇	◇	◇	◇
	ポイント理解	◇	◇	◇	◇	◇
	概要理解	◇	◇	◇	—	—
	発話表現	—	—	◆	◆	◆
	即時応答	◆	◆	◆	◆	◆
	統合理解	◇	◇	—	—	—

新試験の「聴解」の大問は、①内容が理解できるかどうかを問う問題と、②即時的な処理ができるかどうかを問う問題の二つに大きく分けられます。

① 内容が理解できるかどうかを問う問題

内容理解を問う大問には、「課題理解」「ポイント理解」「概要理解」「統合理解」の四つがあります。「課題理解」と「ポイント理解」は、すべてのレベルで出題されます。「概要理解」は**N1**、**N2**、**N3**で、「統合理解」は**N1**、**N2**で出題します。

「課題理解」は、ある場面で、具体的な課題の解決に必要な情報を聞き取り、適切な行動が選択できるかどうかを問う問題です。指示や助言をしている会話を聞き、それを受けた次の行動としてふさわしいものを選びます。選択枝は文字かイラストで提示されますが、イラストはできる限り現実の場面で目にするような形で示されており、現実のコミュニケーション場面に近づけた形となっています。課題を明確にするために、問題のテキストを聞く前に状況説明と質問が音声で示されます。

「ポイント理解」は、内容のポイントを絞って聞くことができるかどうかを問う問題です。現実のコ

ミュニケーションでは、聞き手は、話し手の発話から、聞き手自身が知りたいと思うことや興味のあることを聞き取ろうとします。新試験においても、受験者があらかじめ何を聞き取らなければならないかを意識して聞くことができるように、問題のテキストを聞く前に状況説明と質問を音声で示し、また、問題冊子に印刷されている選択枝を読む時間を設けました。**N1**、**N2**、**N3**のレベルでは、話し手の心情や出来事の理由などが理解できるかどうか、**N4**、**N5**レベルでは、日程・場所などの具体的な情報が理解できるかどうかを主に問います。

「概要理解」は、テキスト全体から話者の意図や主張などを理解できるかどうかを問う問題です。一部の語や発話が理解できるだけではなく、発話全体としてのメッセージが何かを理解することは、現実場面でも求められる聞き方です。このような問題は、発話の一部の理解を問う問題に比べて、より高度な能力を要求すると考えられるため、**N1**、**N2**、**N3**で出題します。全体を理解する聞き方を問う問題なので、質問と選択枝は事前に示されません。

「統合理解」は、内容がより複雑で情報量の多いテキストについて、内容の理解を問う問題です。例えば、発話者が３名の会話や、２種類の音声テキスト（例：あるニュースと、それについて話し合っている会話の両方を聞く問題）などが含まれます。これらのテキストを理解するには、複数の情報を統合する（比較したり関連づけたりする）必要があり、高度な能力を要求するため、**N1**と**N2**で出題します。

② 即時的な処理ができるかどうかを問う問題

現実の場面においては、一方的に聞くだけでなく、自分も会話に参加しながら他の人の発話を聞く、という状況が多くあります。新試験では、このような状況も出題範囲に反映しました。対話者のいるコミュニケーションでは、発話や応答の適切さを即時に判断する必要があります。そこで、短い発話や状況説明と選択枝のみを聞いて解答する形式とし、即時的な処理ができるかどうかに焦点を当てた問題としました。大問は、「即時応答」と「発話表現」の二つです。

「即時応答」は、相手の発話にどのように応答するのがふさわしいかを即時に判断できるかどうかを問う問題で、全レベルで出題します。短い発話とそれに対する応答（選択枝）は音声で示されます。

「発話表現」は、場面や状況にふさわしい発話を即時に判断できるかどうかを問う問題です。挨拶・依頼･許可求めなどのよく使われる表現を主に扱っており、**N3**、**N4**、**N5**で出題します。場面や状況は、音声による状況説明とイラストで示されます。なお、この問題は他の聴解の問題とは異なり、話し手の発話を選択する形式となっています。実際のコミュニケーションでは、発話が場面や状況に合っているかどうか判断することも必要な力だと考えられますので、新試験では、適切な発話を選択枝から選ぶという問題形式を聴解問題として設けました。

(3) 聴解で扱うテキストの特徴

聴解問題では、各レベルで上述の大問のねらいにふさわしい問題を用意するために、試験問題として作成・録音したテキストを使用しています。現実場面の音声ではないという制約はありますが、その中で最大限現実の聴解に近づけることを目指しています。問題のテキストには「(1) 聴解とは」で述べた話し言葉の特徴をできる限り取り入れ、レベルに応じた発話速度や会話の自然さを保っています。ただし、一部の地域のみで使用される方言など、使用が限定されている言葉は含みません。また、二人以上で話されている会話(ダイアローグ)と一人で話している独話(モノローグ)の両方を含め、話題や場面には「目標言語使用領域」を反映させています。

参考文献

8-1 課題遂行のための言語コミュニケーション能力

- Bachman, L. F. & Palmer, A. S.(1996)*Language Testing in Practice*, Oxford: Oxford University Press.(大友賢二、ランドルフ・スラッシャー訳 2000『<実践>言語テスト作成法』大修館書店)
- Bachman, L. F.(1990)*Fundamental Considerations in Language Testing*, Oxford: Oxford University Press.(池田央、大友賢二監修、大友賢二、笠島準一、服部千秋、法月健訳 1997『言語テスト法の基礎』C.S.L.学習評価研究所)
- Council of Europe(2001)*Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, and Assessment*, Cambridge University Press.(吉島茂、大橋理枝訳 2004『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日書店)

8-2 言語知識(文字・語彙)

- Laufer, B.(1990)Words you know: How they affect the words you learn. In J. Fisiak(Ed.)*Further Insights into Contrastive Linguistics*, Amsterdam: John Benjamins, 573-593.
- Nation, I. S. P.(2001)*Learning Vocabulary in Another Language*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Read, J.(2000)*Assessing Vocabulary*, Cambridge: Cambridge University Press.

8-3 言語知識(文法)

- 池上嘉彦(1983)「テクストとテクストの構造」『日本語教育指導参考書11 談話の研究と教育Ⅰ』国立国語研究所
- Bachman, L. F. & Palmer, A. S.(1996)*Language Testing in Practice*, Oxford: Oxford University Press.(大友賢二、ランドルフ・スラッシャー訳 2000『<実践>言語テスト作成法』大修館書店)
- Purpura, J. E.(2004)*Assessing Grammar*, Cambridge: Cambridge University Press.

8-4 読解

- Urquhart, A. H. & Weir, C. J.(1998)*Reading in a second language*: Process, product and practice. London/New York: Longman.

8-5 聴解

- Buck, G.(2001)*Assessing Listening*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Luoma, S.(2002)*Assessing Speaking*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Rost, M.(2002)*Teaching and Researching Listening*. Harlow: Pearson Education Limited.
- Shohamy, E. & Inbar, O.(1991)Validation of listening comprehension tests: the effect of text and question type. *Language Testing*, 8:23-40.

9. 問題解答上の留意点

ここでは、「7. 新試験の構成と大問のねらい」の中で、「◆ 現行試験では出題されていなかった新しい問題形式のもの」を中心に取り上げて、解答する上での留意点を詳しく説明します。

9－1 言語知識（文字・語彙）

(1) 漢字読み（N1～N5）

現行試験では一文の中から複数の漢字の読みを問うことが多かったのですが、新試験では一文で一語のみ問います。

例（N1）

彼は今、新薬の研究開発に挑んでいる。

1　はげんで　　2　のぞんで　　3　からんで　　4　いどんで

(2) 表記（N1～N5）

現行試験では一文の中から複数の表記を問うことが多かったのですが、新試験では一文で一語のみ問います。

例（N3）

困（こま）っているときに、先生にたすけていただきました。

1　助けて　　2　守けて　　3　支けて　　4　協けて

(3) 語形成（N2のみ）

派生語や複合語の知識を問う問題で、空所補充の形式になっています。現行試験でも出題されていましたが、N2の「言語知識（文字・語彙）」全体での位置づけを明確にし、大問として毎回出題します。

例（N2）

あの映画の最後は（　　）場面として知られている。

1　名　　2　高　　3　良　　4　真

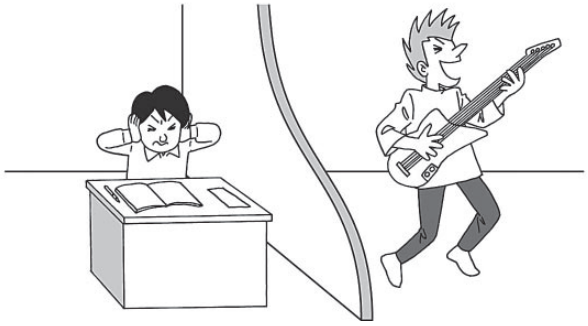
(4) 文脈規定 (N1～N5で出題されますが、変更があるのはN5のみです。)

N5の「文脈規定」では、例のように、イラストを利用した問題を出題することがあります。文だけでは正答を選ぶことができません。イラストを見て、正答を選びます。

例 (N5)

ここは (　　) です。べんきょうできません。

1　くらい　　2　さむい　　3　うるさい　　4　あぶない



9－2 言語知識（文法）

（1）文の文法２（文の組み立て）（N1～N5）

統語的に正しく、かつ、意味が通る文を組み立てることができるかを問う問題で、並べ替えの形式をとっています。

ここでは、例題と文を組み立てる際の留意点について説明します。

① 例題について

「文の文法２（文の組み立て）」の並べ替え形式の問題では、全レベルにわたって問題冊子に例題を載せています。ここでは、**N5**の場合で説明します。

もんだい２　＿★＿に　入る　ものは　どれですか。
1・2・3・4から　いちばん　いい　ものを
一つ　えらんで　ください。

これは解答指示文です。

（もんだいれい）
A「＿＿　＿＿　＿★＿　＿＿　か。」
B「山田さんです。」
1　です　2　は　3　あの　人　4　だれ

これは問題例です。

（こたえかた）
1．ただしい　文を　つくります。
A「＿＿　＿＿　＿★＿　＿＿　か。」
3 あの 人　2 は　4 だれ　1 です
B「山田さんです。」

これは解答のしかたです。
並べ替えた文です。

2．＿★＿に　入る　ばんごうを　くろく　ぬります。
（かいとうようし）　（れい）① ② ③ ●

これは解答用紙の
記入のしかたです。

② 文を組み立てる際の留意点

「文の文法２（文の組み立て）」では、空所の途中で句点（「。」）が入ることはありません。「○」が付いているのが正答で、「×」が付いているのは誤答です。

例（N5）

きのう、 ＿＿＿＿ ＿＿＿＿ ★ ＿＿＿＿ 。

1　じしょを　　2　日本語の　　3　行きました　　4　買いに

○　きのう、 日本語の　じしょを　買いに　行きました 。

×　きのう、 行きました　日本語の　じしょを　買いに 。

この例（**N5**）では「きのう、日本語の　じしょを　買いに　行きました。」が正答です。語順の可能性としては、「きのう、行きました。日本語の　じしょを　買いに。」も考えられます。しかし、後者の語順では、句点（「。」）によって、空所の途中で文が一度切れてしまいます。このように、空所の途中で句点が入るような語順は、「文の文法２（文の組み立て）」では正答としません。

（2）文章の文法（N1～N5）

文章の流れに合った文かどうかを判断することができるかを問う問題で、文章の空所を補充する形式をとっています。全レベルで出題されます。

次の**N4**の例を見てください。

例（N4）

もんだい３ [5] から [9] に 何を 入れますか。

1・2・3・4から いちばん いい ものを 一つ えらんで ください。

つぎの 文章は アリさんが 友だちの 田中さんに 書いた 手紙です。

田中さん、お元気ですか。 わたしは 先週、大学の 近くに
ひっこしを しました。 前は アパートから 大学まで 電車と
バスで 1時間半ぐらい かかりました。 でも、今の アパート
[5] 大学まで 歩いて 10分ぐらいです。 [6] 、ここに
ひっこす ことに しました。 少し せまいですが、新しくて
きれいだし、近所に スーパーも あります。 駅からも 近くて、
生活が とても [7] 。 それに、アパートの へやの まどから
見える けしきも いいです。 だから、ひっこしを して 本当に
よかったと [8] 。 この 手紙と いっしょに、わたしの
へやの まどから 見た けしきの写真を [9] 。 それでは、また。

2010年2月25日

アリ

[5] 1 も　2 が　3 や　4 は

[6] 1 しかし　2 それで　3 たとえば　4 それから

[7] 1 便利に なりました　2 便利だったそうです
3 便利だったからです　4 便利でしょうか

[8] 1 思うようです　2 思って います
3 思ったようです　4 思って いました

[9] 1 送って みませんか　2 送って ください
3 送りましょうか　4 送ります

上の例（**N4**）のように、「文章の文法」では、一つの文章の中に五つの空所があります。文章全体の流れをよく考える必要があります。

9－3 読解

(1) 統合理解 (N1、N2)

複数のテキストを読み比べて、情報を比較・統合しながら理解できるかを問う問題です。

例 (N1)

〈問題 11〉 次のAとBはそれぞれ別の新聞のコラムである。AとBの両方を読んで、後の問いに対する答えとして、最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

A

国語辞典『大言典』の第四版が発売された。十年前の改訂(注1)以降の社会や生活の移り変わりを反映した言葉約一万項目が新たに加えられたという。収録語数は総計二十四万件余りと、同種の辞書の中では最多を誇る。

出版社によると、新たに盛り込まれたのは「逆切れ」など世相を反映した語の他、「イケメン」「ラブラブ」といった若者言葉など。

「逆切れ」については「怒られた人が反対に怒り出してしまうこと」と書かれている。また、「イケメン」は「かっこいい男性」と説明。「ラブラブ」については「互いに愛し合っていて仲がよい様子」と説明されている。

今回採用された新語のうちカタカナ語が実に四割近くを占めた。長年改訂に携わっている担当者の一人は「選定の過程では、私自身もわからない言葉がいくつもあり判断に困った。若者には常識なんでしょうけど」と話していた。

(中央経政新聞)

B

全面改訂された『大言典』第四版では、マスメディアやインターネットなどから収集した約十万語のうち、一時の流行にとどまらず、人々の間に定着したと認められる新語を厳選。「ラブラブ」「イケメン」など約一万語が新たに増えたそうだ。

時代の流れに即した新感覚の辞書と言えば響きはいいが、宣伝のための話題作り以上のものがあるだろうか。流行とはしょせん一時のもの。いずれ消えゆくものは自然に忘れ去られるまで放っておけばよい。

それゆえ、「家電(いえでん)(＝自宅の電話番号)」「クールビズ(＝夏のビジネス用の服装)」などは、「一時的な流行や狭い範囲だけで使われている」として採用が見送られたのは賢明であろう。

(毎朝日報)

(注1) 改訂：本や辞書を直して新しく出版すること

27 **この辞書が多くの新語を取り入れたことについて、Aの筆者とBの筆者はどのような立場をとっているか。**

1　AもBも、ともに明確にしていない。
2　AもBも、ともに批判的である。
3　Aは批判的であるが、Bは明確にしていない。
4　Aは明確にしていないが、Bは批判的である。

テキストAでは、筆者の立場ははっきり書かれていません。テキストBでは、筆者は第2段落で批判的な立場を取っています。したがって、正答は4となります。

この例のように、AとBという複数のテキストを見比べて、比較・統合して理解することができるかどうかを問う問題が「統合理解」です。

(2) 主張理解 (N1、N2)

社説や評論などの論理的な文章を読んで、テキストが全体として伝えようとしている主張・意見を読み取ることができるかを問う問題です。問題の形式は新しいものではありませんが、**N1**、**N2**の読解問題全体の構成の中での位置づけを明確にし、大問として毎回出題します。

(3) 情報検索 (N1～N5)

「情報素材」の中から必要な情報を探し出すことができるかを問う問題です。

「情報素材」とは、お知らせやパンフレットなど、隅から隅までじっくり読んで理解するのではなく、読む目的に沿って、必要なところだけを探したり拾い読みしたりすることが多いタイプのテキスト全般を指します。

したがって、「情報検索」では、例 (**N2**) のようにまず「問い」があり、その後にテキストがあります。

例 (N2)

〈問題14〉　下は、「かすみ市」の市立図書館の利用案内である。
後の問いに対する答えとして、最も適当なものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

30 **かすみ市に住んではいないが市内で働いている人が、図書館カードを作るとき何が必要か。**

1　現住所が確認(かくにん)できるもの
2　通勤・通学が確認(かくにん)できるもの
3　現住所と通勤が確認(かくにん)できるもの
4　現住所が確認(かくにん)できるものと外国人登録証

かすみ市立図書館利用案内

☆図書館カードの新規作成

※図書やCD等の資料を借りるには図書館カードが必要です。

あなたは、かすみ市にお住まいですか。

はい → 図書館カードが作れます。

運転免許証、健康保険証、自分あての郵便物など現住所が確認できるものをお持ちください。
外国人の方で6か月以上滞在の場合は外国人登録証があればカードが作れます。

いいえ ↓

あなたは、かすみ市に通勤または通学していますか。

はい → 図書館カードが作れます。

上記の現住所が確認できるものに加えて、学生証、社員証など通勤・通学が確認できるものをお持ちください。

いいえ ↓

図書館カードは作れませんが、館内での図書の利用は可能です。

☆図書館カードの更新

図書館カードの有効期限は3年間です。有効期限が過ぎる前に、カードの更新をしてください。
更新に必要なもの：古いカードおよび新規申込時と同様の証明書をお持ちください。
※古いカードで借りたまま返していない貸し出し図書がある場合は更新できません。

☆貸し出し冊数

図書（本・雑誌）	1人5冊まで
CD・カセットテープ・ビデオテープ・DVD	1人3点まで

合計8点まで貸し出しできます。
※ただし、雑誌の最新号は貸し出しできません。

☆貸し出し期間

図書（本・雑誌）	2週間以内
CD・カセットテープ・ビデオテープ・DVD	1週間以内

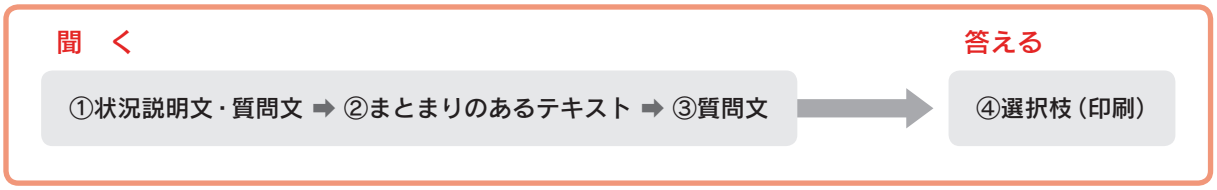
※貸し出し期間の算定は、貸し出し日の翌日からとなります。
※貸し出し期間は、申し出のあった日から2週間だけ延長することができます。
電話でのお申し出も受け付けます。
（だたし、期限切れや予約が入っている図書の延長はできません。また、CDやビデオなどの視聴覚資料の延長はできませんのでご了承ください。）

9－4 聴解

「8－5　聴解」で説明したように、新試験の「聴解」では、①内容が理解できるかどうかを問う問題と、②即時的な処理ができるかどうかを問う問題の二つになり、現行試験から問題の構成が大きく変わります。そこで、「聴解」では、すべての大問について詳しく解き方を説明します。

(1) 課題理解（N1～N5）

課題理解の流れは、次のようになっています。



① 状況説明文と質問文を聞きます。質問文では「男の人はこれから何をしますか」のような質問がされます。

② まとまりのあるテキストが流れます。問題冊子に印刷されたイラストや文字による四つの選択枝を見ながら、聞きます。

③ もう一度質問文を聞きます。

④ 質問文のあと、数秒間の解答時間があります。この間に、四つの選択枝の中から、もっとも適切な答えを選びます。

問題例

例（N1）

女の人が新しい製品の企画書について男の人と話しています。
女の人はこのあと何をしなければなりませんか。

①状況説明文と質問文を聞きます

女性：課長、明日(あす)の会議の企画書、みていただけたでしょうか。

男性：うん、わかりやすく出来上がってるね。

女性：あ、ありがとうございます。ただ、実は製品の説明がちょっと弱いかなって気になってるんですが…。

男性：うーん、そうだね。でもまあ、この部分はいいかな。で、えーと、この11ページのグラフ、これ、ずいぶん前のだね。

女性：あ、すみません。

男性：じゃ、そのグラフは替えて…。あ、それから、会議室のパソコンやマイクの準備はできてる？

女性：あ、そちらは大丈夫です。

②まとまりのあるテキストを聞きます

女の人はこのあと何をしなければなりませんか。

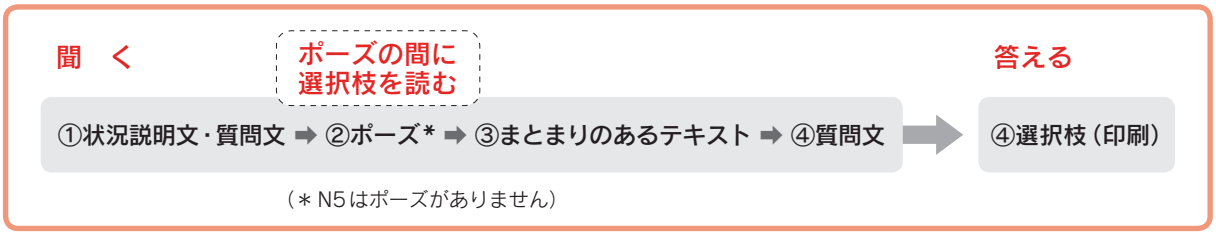
③もう一度質問文を聞きます

1. **企画書(きかくしょ)を見(み)せる**
2. **製品(せいひん)の説明(せつめい)を書(か)き直(なお)す**
3. **データを新(あたら)しくする**
4. **パソコンを準備(じゅんび)する**

④問題用紙に印刷された選択枝から、答えを選びます
（正答3）

(2) ポイント理解 (N1～N5)

ポイント理解の流れは、次のようになっています。



① 状況説明文と質問文を聞きます。

② **N1** から **N4** では、質問文のあとに数秒間のポーズがあります。この間に問題冊子に印刷された文字による四つの選択枝を読み、具体的に何を聞き取らなければならないかを確認します。**N5** にはポーズがありません。

③ まとまりのあるテキストが流れます。選択枝を見ながら聞きます (**N5** ではイラストもあります)。

④ もう一度質問文を聞きます。

⑤ 質問文のあと、数秒間の解答時間があります。この間に、問題冊子に印刷された選択枝の中から、もっとも適切な答えを選びます。

問題例

例（N1）

大学で男の人と女の人が話しています。
この男の人は先生がどうして怒ったと言っていますか。

①状況説明文と質問文を聞きます

〈ポーズ〉

②選択枝を読む時間が与えられます

男性：あー、先生を怒らせちゃったみたいなんだよねー。困ったなぁ。

女性：え、どうしたの？

男性：う～ん。いやそれがね、先生に頼まれた資料、昨日までに渡さなくちゃいけなかったんだけど、いろいろあって渡せなくて…。

女性：えー、それで怒られちゃったの？

男性：うん、いや、それで怒られたっていうより、おととい、授業の後、飲み会があってね。で、ついそれを持ってっちゃったんだけど、飲みすぎて、寝ちゃって、忘れてきちゃったんだよね。

女性：え、じゃ、なくしちゃったわけ？

男性：いや、出てはきたんだけどね、うん。先生が、なんでそんな大事な資料を飲み会なんかに持って行くんだって。

女性：ま、そりゃそうよね。

③まとまりのあるテキストを聞きます

この男の人は先生がどうして怒ったと言っていますか。

④もう一度質問文を聞きます

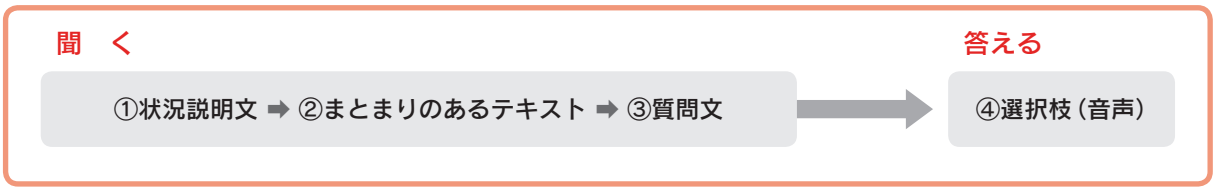
1. **昨日までに資料を渡さなかったから**
2. **飲み会で飲みすぎて寝てしまったから**
3. **飲み会に資料を持っていったから**
4. **資料をなくしてしまったから**

⑤問題用紙に印刷された選択枝から、答えを選びます
（正答3）

(3) 概要理解 (N1～N3)

概要理解の流れは、次のようになっています。

課題理解やポイント理解とは異なり、質問文は最初には流れず、まとまりのあるテキストの後に一度だけ流れます。



① 状況説明文を聞きます (質問文は流れません)。

② まとまりのあるテキストを聞きます。

③ 質問文を聞きます。

④ 四つの選択枝が音声で提示されます。もっとも適切な答えを選びます。

▶ 問題例

例 (N1)

大学の先生が話しています。

今日は最初の授業なので、授業内容について簡単に説明します。えー、犬の祖先は、今の犬とは、外見だけではなく、習性もずいぶん違っていました。ちょっと例をあげてみますと、進化の結果、犬は、よくほえるようになりましたが、犬の祖先はめったにほえませんでした。これはですね、人間の都合によって、ほえる犬が選択されたためです。それから、進化の過程で形を変えた動物もいます。ある鳥は、細長い花の蜜をすうために、くちばしが異常に長くなりました。あと、すむ環境にあわせて、形を変化させたものもいますね。えー、この授業では、こういう現象をみていきたいと思います。

この授業でとりあげる内容はどのようなことですか。

1. 動物の種類　　2. 動物のすむ環境
3. 動物の進化　　4. 動物と人間の関係

①状況説明文を聞きます

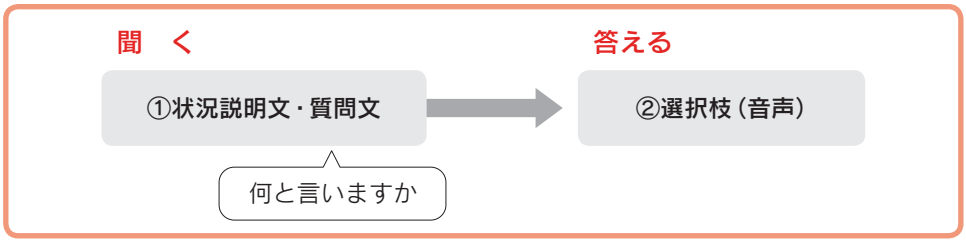
②まとまりのあるテキストを聞きます

③質問文を聞きます

④選択枝が読まれるので、その中から答えを選びます (正答3)

(4) 発話表現 (N3～N5)

発話表現の流れは、次のようになっています。

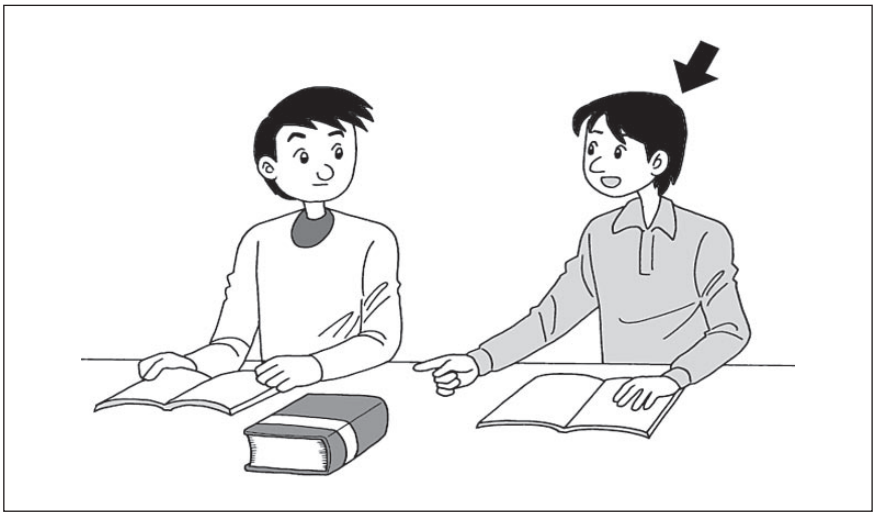


① 状況説明文と質問文「何と言いますか」が流れます。イラストを見ながら聞きます。

② 三つの選択枝が音声で提示されます。イラストの中の、矢印で示されている人物がこの後何と言うか、最も適切な発話を選びます。

▶ 問題例

例 (N5)



友達の辞書を使いたいです。何と言いますか？

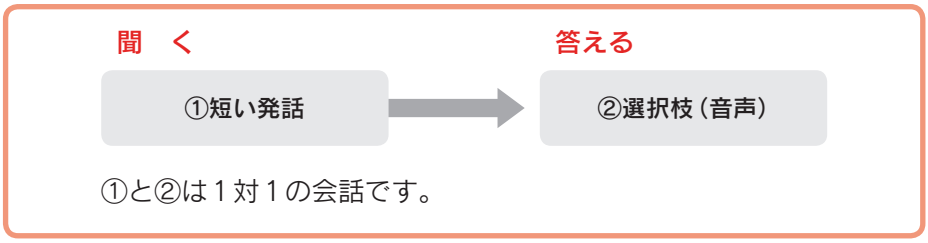
1. この辞書、ありがとうございました。
2. この辞書、貸してください。
3. この辞書、いいですよ。

①状況説明文と質問文を聞きます

②選択枝が読まれるので、その中から答えを選びます
(正答2)

(5) 即時応答 (N1～N5)

即時応答の流れは、次のようになっています。



① 質問などの短い発話を聞きます。

② その発話に対する、三つの返答 (選択枝) が音声で提示されます。最初の人の発話に対して何と答えたらいいか、もっとも適切な返答を選びます。

▶ 問題例

例 (N1)

あーあ、今日は、お客さんからの苦情が多くて、仕事にならなかったよ。

①短い発話を聞きます

1. いい仕事、できてよかったね。
2. 仕事、なくて大変だったね。
3. お疲れ様、ゆっくり休んで。

②その発話に対する返答を聞き、もっとも適切なものを選びます (正答 3)

(6) 統合理解 (N1、N2)

統合理解の流れは、次のようになっています。

長いテキストを聞いて、それに続く質問に答えます。質問文は、最初は流れず、長めのテキストのあとに一度だけ流れます。

① 状況説明文を聞きます (質問文は流れません)。

② 長めのテキストを聞きます。

③ 質問文を聞きます。1番では一つのテキストについて一つの質問が、2番では一つのテキストについて二つの質問がなされます。

④ 1番では選択枝が音声のみで提示されます。2番では選択枝が問題冊子に印刷されています。それぞれ、四つの選択枝の中から、もっとも適切な答えを選びます。

注) このほかのタイプの問題も出題されることがあります。

▶ 問題例

1番　例（N2）

家族三人が父親のタバコについて話しています。

①状況説明文を聞きます

女性1：おとうさん、またタバコですか。もうそろそろ禁煙してくださいよ。

男性1：どうして？

女性1：おとうさんには、長生きしてほしいし。

男性1：それなら、大丈夫だよ。60歳をすぎたら、タバコをすっても、すわなくても、寿命はかわらないって調査があったぞ。タバコをやめると太るっていうから、今のほうが長生きできるってわけだ。

男性2：おとうさんは、いいかもしれないけど、おかあさんやぼくは、毎日お父さんのタバコの煙をすわされているわけでしょう？そのほうが、もっと健康に悪いってテレビで言ってたよ。

女性1：そうよ。家族にも被害を与えているんですよ。

男性1：そうか…それは責任重大だね。じゃ、がんばってみるよ。

女性1：そうですよ。おねがいしますよ。

②長めのテキストを聞きます

お父さんはなぜタバコを吸わないことにしましたか。

③質問文を聞きます

1. **長生きしたいから**
2. **体重が増えたから**
3. **60歳になったから**
4. **家族の健康に悪いから**

④選択枝が読まれるので、その中から答えを選びます
（正答4）

2番　例（N1）

お店の人がジュースの説明をしています。

①状況説明文を聞きます

男性1：えー、こちらをご覧ください。当店ではおいしさだけでなく栄養のバランスを考えた健康ジュースをご用意いたしました。黄色、紫、緑、赤の4種類。それぞれ効果が異なりますので、皆さまの体調や目的に合わせてお選びいただけます。まず男性サラリーマンの方に人気なのがこの黄色でして、こちらは疲労回復効果があります。えー次に女性の方にお勧めなのが、この紫で、美容に大変いい要素が豊富に含まれております。緑には、パソコンなどによる目の疲れを取る働きがございます。またちょっと高いんですが、若い男性の方々からは、黄色にさらに美容効果を加えたこの赤が、大変ご好評でございます。

女性　：へえ、よさそう。やっぱりきれいになるっていうのは魅力的ね。

男性2：でも、仕事で一日中パソコン使ってるんだよね？

女性　：そうなのよね。目の疲れってのもつらいのよね。そっちのほうがいいかな。

男性2：じゃあ、飲んでみたら？僕は最近体がだるいから…。

女性　：赤ならお肌もきれいになりそうね。ちょっと高めみたいだけど。

男性2：いやあ、僕は美容効果の方はいいよ。

②長めのテキストを聞きます

質問1. この女の人にはどのジュースが最も効果的ですか。

③質問文を聞きます

質問1.
1. 黄色（きいろ）　2. 紫（むらさき）　3. 緑（みどり）　4. 赤（あか）

④問題冊子に印刷された選択枝から、答えを選びます（正答3）

質問2. この男の人はどのジュースを飲もうと考えていますか。

③質問文を聞きます

質問2.
1. 黄色（きいろ）　2. 紫（むらさき）　3. 緑（みどり）　4. 赤（あか）

④問題冊子に印刷された選択枝から、答えを選びます（正答1）